

都市再生整備計画

いわむらだえきしゅうへん
岩村田駅周辺地区
(都市再構築戦略事業)

ながの 長野県 さくし 佐久市

平成28年8月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	佐久市	地区名	岩村田駅周辺地区(都市再構築戦略事業)	面積	107.84 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------------------	----	-----------

計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度	交付期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

大目標:ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

目標①:地域病院の整備により地域医療体制を充実させ、持続可能な健康長寿と子育てのまちづくりを推進する。

目標②:交通ネットワークの活用により、交通拠点を中心とした交流と賑わいを創出する。

目標③:歩行者や自転車の安心安全なネットワークと地区内の交流の拠点整備により、地域内のコミュニティ機能を再生する。

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)

岩村田地区は、JR小海線岩村田駅を中心とし、高校、大学等の文教施設や警察署、裁判所、税務署等広域的な公共施設が集積する佐久地域の中心地として発展してきた。平成9年には、北陸新幹線佐久平駅が開業し、新駅を中心とした都市基盤整備により、大型商業施設などの相次ぐ立地による商業集積が進み、佐久平駅周辺において新市街地が形成された一方で、旧来の市街地中心部は商店街としての役割を「地域住民のコミュニティの場」として位置づけ、様々な事業に取り組んでいる。昨今の少子超高齢化社会の本格的な到来による社会経済情勢にあって、特に高齢者世帯、高齢者単独世帯の増加は、地域内のコミュニティ機能を低下させており、持続可能なまちづくりのためにも、交流と賑わいの創出と地域コミュニティ機能の再生が必要となっている。

こうしたことから、岩村田駅を中心とした中心市街地を「中心拠点区域」に位置付け、交通ネットワークの拠点となる岩村田駅および佐久平駅周辺の魅力の向上により交流人口を増加させ、地域商店街を含めたまち全体の賑わいの再生と、公共交通機関を中心とした歩行者、自転車のネットワークの構築により、公共交通が中心のまちへの転換を図る。

なお、都市機能の再構築のための整備にあたっては、平成24年2月策定した「第二次佐久市行政改革大綱」に基づき公的不動産の有効活用の観点から資産の適正管理、施設配置と整備の適正化やその在り方について不断に点検・検証を行い、中長期的かつ多角的な視点に立った施設の縮小・廃止・統合の検討を進めることとしており、岩村田駅周辺については病院や地域交流センターなどの公共施設の更新等にあわせて再配置を行い、公的不動産を有効利用し都市機能の集積を図る。

まちづくりの経緯及び現況

・地域の中心となる岩村田周辺は、中山道、佐久甲州街道、善光寺道が交差し、城下町、宿場町として栄えてきた。

・近年は、上信越自動車道佐久インターチェンジの開通や、北陸新幹線佐久平駅の開業により、高速交通網の要衝となり、佐久市及び佐久都市圏の拠点となる地域となっている。

・平成23年には、中部横断自動車道の整備に伴い、当該地域に近接して佐久北インターチェンジ及び佐久中佐都インターチェンジが開通した。

・平成26年度には、北陸新幹線の長野から金沢間が開業予定であり、佐久平駅は首都圏だけでなく、北陸への窓口となる。

・周辺には岩村田高校、北佐久農業高校、佐久長聖高校、佐久大学、佐久大学信州短期大学部などの文教施設、佐久勤労者福祉センター、佐久警察署、佐久税務署、長野地方裁判所等広域的な施設が集積しており、長野県小諸と山梨県小淵沢を結ぶ在来線であるJR小海線岩村田駅の通勤通学者の利用は非常に多い。

・都市基盤整備の進捗から、当該浅間地区では若者や子育て世代の人口が増加しており、岩村田小学校は千人を超えるマンモス校となっていたため、通学区を二分する新小学校及び児童館の整備を進めている。

・佐久保健医療圏を担う佐久市立国保浅間総合病院では、患者数の増加により病院棟の建て替えを進めており、手術棟を含む第2期の工事を実施するところである。

・岩村田駅を中心とした区域は、「交通安全施設等整備事業の推進に関する法律に基づく法律」における安心歩行エリアに位置付けられ、交通安全施設整備が進められている。

課題

・北陸新幹線の延伸に伴い、佐久地域の交流人口の創出のため、佐久都市圏の窓口となる佐久平駅および岩村田駅周辺の再興により、利便性の向上と魅力の創出が必要である。

・健康長寿を全うできるよう、また安心して子を産み育てることができるよう、公共交通機関から徒歩圏内にある地域の核となっている医療機関の充実が必要である。

・子育て世代の人口集積のために、安心して子育てのできる環境整備として、子供たちが安心して過ごせる新小学校や児童館、公園の整備が必要である。

・公共交通を必要とし、徒歩や自転車が唯一の交通手段である高齢者や児童、生徒及び学生の通学の安全のため、歩道が未整備の危険な通学路の対策が必要である。

・高齢化時代における相互扶助力を高めるコミュニティ機能の強化育成のために、地区内の交流の拠点整備が必要である。

将来ビジョン(中長期)

(第一次佐久市総合計画後期基本計画)

・ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

・みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

(佐久市都市計画マスタープラン)

・未来へつなぎ、未来を築く、文化・教育・医療・産業・交通などが一体となった多機能なまち

佐久市の中核地域として佐久市全体を牽引し、次世代につなげる魅力と活気あふれるまちづくりの推進及び高次都市機能の集積を図る

都市再構築戦略事業の計画

都市機能配置の考え方

当市の都市構造は二度に渡る合併を経て、その歴史的背景や地理的条件から合併前の中心市街地が地域の核となる多核構造となっており、その核を中心に周辺集落や周囲の山裾に位置する集落が形成され、それぞれの核等に様々な用途の公共施設が整備され、大きなストックを抱えている状況である。少子高齢化、人口減少、経済低迷等の社会経済情勢下にあつて、本市が目指す都市構造であるネットワーク型コンパクトシティの形成に向け、駅などの公共交通機関が充実した中心拠点(中心市街地等)においては、既存ストックを最大限に活用することで、都市機能維持に必要な機能を確保し、地方都市の拠点の活性化に資する施設整備を行う。「産業拠点」である工業団地については、高度な産業・研究開発機能や流通業務機能などが集積した機能性の高い産業空間の形成、「地域拠点」については、地域の特性と調和した商業・住居・文化・公的サービス・交通結節などの機能を備えた、自立性の高い拠点の形成を図り、それぞれの拠点における機能や役割分担の明確化と拠点の規模の適正化を図り、各拠点において都市機能の質や機能性を高め、拠点化の促進を図ることにより、拡散的な都市機能の立地を抑制する。

岩村田駅周辺地区については、JR岩村田駅を中心として発展してきた市街地からなり、各々の公共交通拠点の結節機能を活用し、商店街、文教施設、公共施設が集積しており、公共公益機能を有している中心拠点区域として、市立浅間総合病院及び地域交流センターである浅間会館の再築計画を契機として、公共交通を活用した安全安心のまちづくりと地域内のコミュニティ機能を再生するために、都市機能の更なる集積を図っていく。

目標を達成する上で必要な「中心拠点誘導施設」「生活拠点誘導施設」「高齢者交流拠点誘導施設」の考え方(民間事業者による事業継続の見込みや民間事業に対する行政の支援等を含む)

・中心拠点誘導施設(医療施設):市立病院

市立病院の再整備にあたっては、今後増大かつ多様化する医療需要に対応するために、総合的に保健・医療・福祉・介護に病院機能の病病連携・病診連携を進める地域の中核的な拠点病院としての役割が求められる。このため、公共交通を必要とする高齢者、生徒児童のために、交通ネットワークが充実し、アクセス性の高い中心拠点区域に配置する必要がある。

また、中心拠点区域へ都市機能を集約することにより、若年層や高齢化世帯の人口集積を図り、少子高齢化社会におけるコンパクトな都市構造を再興していく。

都市再構築戦略事業に必要となるその他の交付対象事業等

・道路(都市再構築戦略事業)(市道2-1号線)(市道2-250号線)…中心拠点区域内の居住者や中心拠点区域に集まる通勤通学者等が安全で快適に移動できる道路環境を整備し、安心して暮らし続けられるまちの再興が図られる。

・高次都市施設(都市再構築戦略事業)(浅間会館)…社会教育活動や地域活動の拠点施設として、健康で文化的な生活を送るとともに、希薄化した地域のあり方や繋がりが、社会信頼関係の再構築が図られる

目標を定量化する指標

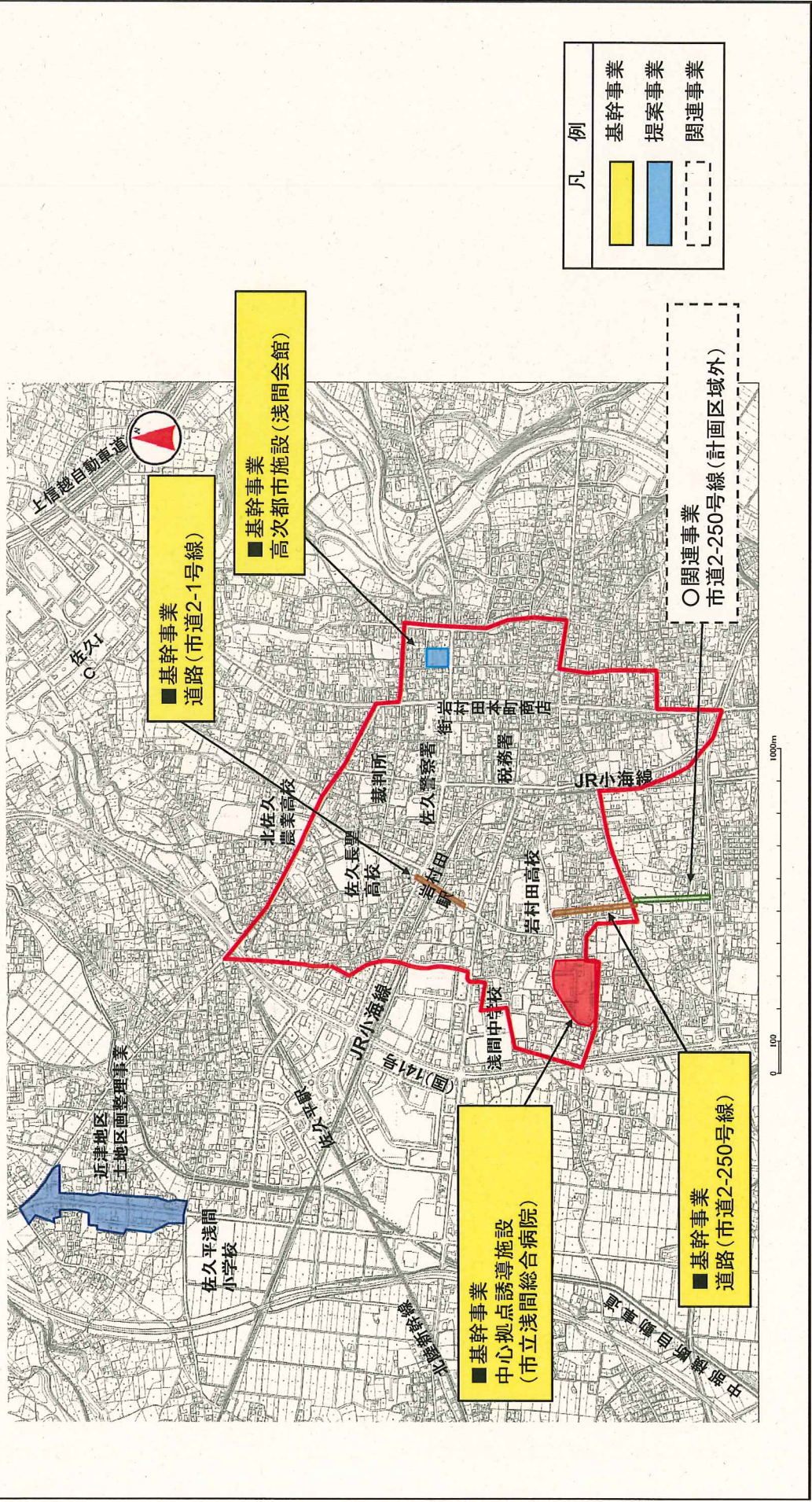
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
浅間総合病院の健康診断健診者数	人/年	浅間総合病院の年間健康診断健診者数	医療機関相互の病病連携・病診連携を進め、地域医療の核となる浅間総合病院の再興により、健康診断健診者数の増大を図る。	9,575	平成24年度	平成29年度
浅間会館の利用者数	人/年	地域交流施設である浅間会館の年間利用者数	地域交流施設である浅間会館の再興により、実際生活に即する教育、学術および文化に関する各種の事業を充実させ、住民の交流の促進を図る。	24,287	平成24年度	平成29年度
JR岩村田駅の小海線乗車人員	人/日	JR岩村田駅(JR小海線)の日平均乗車人員	JR岩村田駅を中心とした区域における都市機能の再興を図り、岩村田駅の利用を促進し、交流人口の拡大を図る。	1,233	平成24年度	平成29年度

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【地域病院の整備により地域医療体制を充実させ、持続可能な健康長寿と子育てのまちづくりを推進する。】 「世界最高健康都市」を標榜している本市にとって、医療体制の充実が市民が最も重要視する施策のひとつである。計画区域だけでなく、周辺地区において必要な医療施設である「浅間総合病院」の充実が、当該地域医療に資する重要な施策である。</p>	<p>【基幹事業】 ・中心拠点誘導施設：佐久市立国保浅間総合病院</p>
<p>【交通ネットワークの活用により、交通拠点を中心とした交流と賑わいを創出する。】 佐久平駅周辺の新市街地及び、岩村田駅周辺の旧市街地での地域間交流・世代間交流の場である浅間会館（市民交流センター）の機能を充実し、地域の特徴である交通拠点を効果的に活用した、交通拠点を中心とした賑わいを創出する。</p>	<p>【基幹事業】 ・高次都市施設（都市再構築戦略事業）：浅間会館（地域交流センター）</p> <p>【関連事業】 ・近津地区土地区画整理事業 ・佐久平浅間小学校（仮称）建設 ・佐久平駅前広場活用検討調査 ・佐久平観光交流センター ・岩村田地区北部児童館（仮称） ・事業効果分析事業 ・佐久ブルームイベント補助</p>
<p>【歩行者や自転車の安心安全なネットワークと地区内の交流の拠点整備により、地域内のコミュニティ機能を再生する。】 計画区域内における線路で隔てられている地区において、主要なアクセス道路の歩行空間を確保することによって、相互の交流促進を効果的に促進する。</p>	<p>【基幹事業】 ・道路（都市再構築戦略事業）：市道2-1号線 ・道路（都市再構築戦略事業）：市道2-250号線</p> <p>【関連事業】 ・市道2-250号線（計画区域外）</p>
<p>事業実施における特記事項</p>	
<p> </p>	

岩村田駅周辺地区(長野県佐久市) 整備方針概要図

目標	ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり	代表的な指標	間病院の健康診断健診者数 (人/年) → 9,575 (H24年度)	→ 9,860 (H29年度)
			浅間会館の利用者数 (人/年) → 24,287 (H24年度)	→ 25,500 (H29年度)
			JR岩村田駅の小海線乗車人員 (人/日) → 1,233 (H24年度)	→ 1,250 (H29年度)



凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業